

Windows 2000 Datacenter Server & Unisys Enterprise Server ES7000

Case Study 7

カードビジネスの基幹システムをホストコンピュータから  
ES7000とWindows 2000 Datacenter Serverにリプレース

株式会社ゆめカード

業種 カード事業  
本社所在地 広島県広島市  
URL <http://www.izumi.co.jp/youmecard/>

ゆめカードは、大手総合小売りチェーンのイズミ(別項参照)の連結子会社として、1997年に設立されたカードビジネス専門会社である。ゆめカードでは、主にイズミの顧客に対しカードを発行し、イズミグループのショッピングセンターや専門店で買い物をする際のクレジットカード、現金ポイントカードとして利用してもらうことで、イズミの販売促進に寄与している。2002年6月からはグローバルカードとして提携各種国際カードを発行し、利用の場を全国規模に拡大している。現在のカード会員数は約220万人。

コスト高で修正が困難なホストシステムを  
オープンシステムで再構築

これまで、ゆめカードでは、会員、売掛債権、加盟店管理などのカード基幹業務をイズミと同様、メインフレームで構築し、運用を外部にアウトソーシング委託してきた。そこでは、やはりイズミと同様に、流通業界の急速な環境変化に迅速に対処するためにはシステムの変更や機能追加が不可欠であるが、従来システムでは手直しに多大な時間とコストがかかるという問題に直面していた。

「一番の問題はデータベースで、システムは運用を重ねるたびに肥大化していく。その際、ある一部を修正しようすると、ホストシステムでは、基本に戻って大元から変更しないとイケない。これは時間のロスが多く面倒な作業になる。しかも、どんどん継ぎ接ぎだらけのシステムになってしまい、ますます修正が困難になっていく。継ぎ接ぎの間からは雨漏りもするようになる。とって雨漏りを防ぐために基本から新しいシステムに換えようとしても、さらに大きなホストが必

要になり、膨大な費用がかかるので、実際にはほとんどリプレースが困難だ。そのため、非効率で動脈硬化を起こしているシステムがさらにどんどん肥大化していくという悪循環に陥っていた」(システム・新商品・新規業務担当執行役員澤田健三氏)。

今後の事業拡大を考慮すれば  
パフォーマンスと拡張性は必須要件

この状況を打破するには、ホストに代わる新しいシステムを再構築しなければならないという結論に達した。当初は、3年間はホストシステムを維持しつつ、その間にUNIXで新システムを構築する計画であった。そうしたなかで、親会社であるイズミが基幹業務をホストから日本ユニシスのES7000とWindows 2000 Datacenter Serverによるオープンシステムにリプレースする構想が持ち上がってきたのである。

しかし、ホスト育ちの澤田氏にはWindowsシステムは不安定で、基幹系では使い物にならないだろうという思いがあったという。それがES7000の稼働状況を実際に見学することで、その処理能力の高さとレスポンスの速さに驚き、これならばホストと同等以上の能力を発揮できるに違いないと考えるようになった。「最初にES7000を見たときは、その筐体の大きさに、これってホストとどこが違うの?」と思ったと、澤田氏は笑う。

そのうえ、ES7000では1台の中に複数のOSやアプリケーションを相互に独立した形で混在させることができること、処理能力に余裕があることから、イズミ本社と一緒に基幹業務システムをES7000とWindows 2000 Datacenter Serverによるオープンシステムにリプレースすることにした。そのことにより、顧客データなどを共有できるというメリットもある。「両社の顧客データは共通しているの、それを別々に持つことに比べるとコスト削減効果は膨大になる。また、ES7000

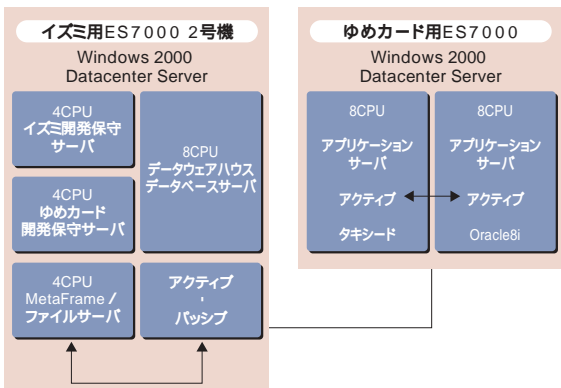


図1 ● 16CPU構成のES7000を8CPUの2パーティションで利用。データベースサーバ(Oracle 8i)は「アクティブ/アクティブ」のクラス構成になっている

ならば新しいアプリケーションを追加する場合でも、CPUを追加するだけで容易にシステムを拡張できる。これは、ゆめカードの将来の発展を実現するためには大事な要素になる」と澤田氏はいう。

### サーバー本体はイズミ本社に設置 運用は自社スタッフのノウハウを活用

ゆめカードにはカードビジネスのシステム開発に経験豊富なシステムエンジニアが多いたこともあり、これまでのシステムもほとんど自社で開発してきた。したがって、ゆめカードの新システム構築にあたっては、基本的にほとんどすべて自社開発を行ったという。その点でイズミ本社とは若干の違いがある。使用するデータベースもイズミ本社では「SQL Server 2000」を使ったが、ゆめカードでは「Oracle 8i」を使っている。

また、当初から自社運用を考えており、ゆめカードのスタッフの能力を活用するためには、ES7000をイズミ本社に設置して、イズミ本社とゆめカードの両方のサーバーをゆめカードのスタッフで運用することが一番効率が良いということになった。これには、将来的にイズミグループ全体のシステムを1つに統合するという大きな構想があることも理由の1つである。

ゆめカードのシステムは、ES7000とWindows 2000 Datacenter Serverの採用を決めた直後から開発に着手され、イズミのシステムより3か月早い2002年3月に稼働を開始した。ES7000上では、クレジットシステムの基幹業務のすべて(CIC、外部情報サービス、キャッシングサービスなど)が、2パーティションのクラスタ構成で稼働している(図1)。そのほか、イズミ本社のES7000の2号機に開発保守用サーバーが同居し、別サーバーとして運用管理サーバー、ゲートウェイサーバーなどがある

### 可用性と拡張性を活用して システムの外販も視野に入れる

新システムを導入した結果、従来以上の高い処理能力と、メインフレーム並みの可用性と信頼性を実現したこと、アプリケーションの開発期間を大幅に短縮し、保守作業の大幅コスト削減を実現したこと、オープンシステムならではの拡張性により、将来の業務変更や業務追加に伴うシステム修正・拡張が短時間、低コストで可能になったことなど、イズミの場合と同じような効果が得られた。なかでも、ゆめカードにとって重要なポイントは、新システムにより自社開発、自社処理、自社決済が可能になったことだ。

澤田氏によると「ホストシステムをオープンシステムにリプレースすることは、大きな構造改革であり、それまで影で動き、



▶親会社であるイズミの本社に設置されているゆめカードのES7000。クレジットシステムの基幹業務のすべてが2パーティションのクラスタ構成で稼働している

何をやっているかわからないまま“金食い虫”だったシステムが、表面に出てくることで社内ユーザーからも利用できるようになったのは、会社としても大きな転換点だと考えている」とのことだ。現在は情報分析機能の追加を行っており、今後ゆめカードとしては、商品ラインアップを充実することで「イズミ本社に頼ることなく、独立した会社として金融業務全般に手を広げていきたい」という。

ゆめカードは、カード業界では後発企業である。そのため、先発会社に比べると、従来システムとのしがらみのない、スリムでシンプルなシステムを構築することができた。また、ネットワークやPOSなど金融業務に必要なものはすべて取り入れることができるシステムになっているので、これは今後カード事業に新たに参入する企業にとっても参考になるシステムだろう。「日本ユニシスと連携しつつ、システム自体の外販も検討していきたい」と澤田氏は語る。「金融業務は単に右から左にお金を移すだけのことであり、システムが最大の商品であり、すべてである。そのシステムを自由に構築できる大きな武器としてES7000とWindows 2000 Datacenter Serverに期待しているし、またできるものと確信している」ということだ。

(取材／文 板谷芳男)



▲株式会社ゆめカード システム・新商品・新規事業担当執行役員 澤田健三氏